

8 2011
AUGUST
VOL.173



The Human

ザ・ヒューマン

水産業界に光は射すか

■ 巻頭特集

- 地域を育む人と企業
- Dr.訪問 地域医療に貢献する
- 時代と人をつなぐスペシャリスト
- 心のふるさと 社寺めぐり
- 美食探訪 一度行きたいお薦めの逸店



代表取締役 山口 裕治

埼玉県出身。幼少のころより野球に親しみ、学生時代はピッチャーとして活躍。プロ野球選手を目指し本格的な練習を積むが、肩の負傷が原因で夢を断念。子ども好きであったことから幼少児にスポーツ指導を行うインストラクターの道へ転向し、幼児体育の道へ進む。幼稚園、保育園でのスポーツ指導を目的とした人材派遣を手掛ける会社に勤務し、1995年に独立。『ビクトリースポーツクラブ』を設立し、現在に至る。

できなかつたことができるようになる喜び——。
幼児期に経験すべき大切な要素がスポーツにはあるのです

渡嘉敷 こちらは子どもたちにスポーツ指導を行っていただけるのだから。山口社長ご自身も何かスポーツを？

山口 野球に打ち込んでおりました。学生時代にはプロ野球選手になることを目標に掲げ、ピッチャーとして厳しい練習を積んできましたが、ある時、肩を痛めてしまい、それが原因で夢を断念しました。その後は、子ども好きだったことから幼少児にスポーツを指導するインストラクターを志し、幼児体育の道へ進みました。

渡嘉敷 持ち前の運動能力を活かして、子どもたちにスポーツの楽しさを伝えようと思われたわけですね。

山口 ええ。幼稚園などにスタッフを派遣して子どもたちにスポーツ指導を行う会社に入社し、8年ほど経験を積みました。その中で出会った恩師の園長先生との出会いが独立へとつながったんです。その園長先生がいらつしゃった幼稚園は、当時50名ほどの園児が在籍していましたが、「これか

らもつと多くの子どもたちを迎え入れたいので、独立して当園の専任の講師になってほしい」というのが、園長先生からいただいたお話でした。

渡嘉敷 園長先生から声をかけられるなんて、良いお仕事をされていた証だと思えます。しかし、お勤め時代との違いに戸惑うこともあったのでは？

山口 最初は戸惑うこともありましたが、専任講師として一つの場所に通うと、毎日子どもたちの様子を見ることができるようになるんですね。そうすると、それぞれに合った指導が行えるんです。勤めていたころは、常に複数の園を回っていましたが、子どもたち全員のことには把握しきれませんでした。でも子どもの性格は十人十色でしょう。だから各自の個性に合わせた教え方があって然るべきだし、常にそばにいる者が教えた方が子どもにとっても良いのではと思うようになったんです。そこで、



VICTORY

有限会社 ビクトリースポーツクラブ

東京都北区岩淵町 15-10-102

TEL 03-5249-6250

FAX 03-5249-6251

URL : <http://www.victory-sc.co.jp/>

スポーツの楽しさを伝えることで 健康な身体と健全な精神を育み 子どもたちの成長を力強くサポートする

幼稚園などで、幼少児を対象にスポーツ指導を行っている『ビクトリースポーツクラブ』。スタッフが各園に常勤することで、子ども一人ひとりの個性を知り尽くすよう努める姿勢には、幼稚園や保護者から高い評価が寄せられている。本日は元世界Jrフライ級チャンピオンの渡嘉敷勝男氏が山口社長にお話を伺った。

1995年に『ビクトリースポーツクラブ』を立ち上げる際には、スタッフを各幼稚園に常勤させるスタイルを採用しました。渡嘉敷 なるほど。具体的にはどのようなスポーツを指導しておられるのですか。

山口 基本的にはサッカーや体操、スイミングですね。幼稚園では跳び箱やマット運動などにも取り組めますし、ご依頼があればご家庭まで伺い個人レッスンもしています。ジャンルを問わず、運動全般に対応していますね。現在、約12園と契約を結んでおり、25ほどのクラブで約800名弱の会員様が活動しています。

渡嘉敷 子どもたちに広くスポーツを教える立場として、どのような点に気をつけておられるのですか。

山口 とにかく「楽しくやる」という方針を貫いています。子どもたちはあらゆる経験をスポンジのように吸収し、信じられないスピードで日々成長しています。ですから、ただスポーツを教えるだけではなく、身体を動かす楽しさを知ってもらい、できなかったことができるようになる喜びを与えることが大切だと考えています。スポーツは子どもたちの健康な身体を育むだけでなく、精神も鍛えてくれますから。スポーツマンシップという言葉があるように、仲間同士で挨拶をしたり互いの健闘ぶりを称え合ったりすることで、社会人として将来必要となるマナーや品性も身につけられる。スポーツには幼児期に体験すべき要素がたくさんあるんですよ。

渡嘉敷 おっしゃる通りだと思います。最近では家の中でゲームばかりして、コミュニケーション力の低い子どもが増えていると聞きますし、こちらの取り組みは幼稚園や

保護者の方から喜ばれているのでは？

山口 お陰様で多くのお客様から喜びの声をいただいています。子どもたちも私どもの指導がある日を楽しみにしてくれているので、本当にうれしいです。元氣いっぱいの幼少児にスポーツを教えることは決して容易ではありませんし、時には危険も伴い、気持ちは常に張り詰めています。しかし子どもたちの笑顔を見るだけで、やっていて良かったと思えるんですよ。

渡嘉敷 運動能力だけでなく、子どもたちの安全を守るための洞察力、とっさの判断力、それに人間力も必要とされる難しいお仕事ですね。スタッフの皆さんにはどのような言葉かけをなさっているんですか。

山口 「教える前にまず『遊べ』。そうして子どもたち一人ひとりの性格を把握した上で指導を始めなさい」と伝えていきます。幸い当社は優秀な人材に恵まれていて、皆良くやってくれています。また各幼稚園の先生方をはじめ、周囲の方からご支援・ご協力も賜り、そうした皆さんの支えがあったこそ当社の今があると感じています。

渡嘉敷 では最後にこれからの意気込みをお聞かせください。

山口 これまで支えてくださった皆さんに恩返しするためにも、ますますスタッフ全員が一丸となり、熱意を持って子どもたちの指導に当たりたいと思います。また、高齢化の流れを受け、今後はお年寄りの方々に体操を通して笑顔になっていただけるよう普及活動を行い、誰もが生涯元気で過ごせるような世の中をつくりたいですね。そんな、日本を変えられるような組織になることが私どもの目標です。

渡嘉敷 陰ながら応援しています。

●スタッフを常勤させることで幼稚園の運営もサポート！

▼『ビクトリースポーツクラブ』のスタッフは、契約している幼稚園に常勤しており、各園の子どもたちの性格を把握した上で、スポーツの指導に当たっている。また、必要であれば幼稚園の送迎バスの運転を手伝うこともあるのだとか。常に一つの幼稚園に身を置くことで、園児一人ひとりの成長をサポートするだけでなく、幼稚園全体の様子にも目を向け、園の運営に関しても力になれることは、同社の大きな強みとなっている。そんなキャパシティの広さを感じさせる事業スタイルには、「現状には決して満足しませんし、常に上を向いて挑戦を続けたい」と語る山口社長の考えが如実に表れていると言えるだろう。そしてその姿勢こそが、保護者から各幼稚園に寄せられる信頼につながっているのだ。

ゲストインタビュー

渡嘉敷 勝男

「幼少児の体育指導の分野で多大な貢献を続けておられる山口社長。『ビクトリースポーツクラブ』を日本一の組織にしたいとお言葉には気迫が感じられました。今後は『ビクトリーグループ』を発足し、頑張っている社員を経営者に育て上げていくとのこと。さらなる展開が楽しみです！」

